

情報社会学会誌 Vol4. No. 1 2009

目次

| | |
|----------------------|---|
| はじめに | 3 |
| Forward | |
| 大橋正和/Masakazu OHASHI | |

原著論文

| | |
|--|----|
| ネット上のCGM利用における匿名性の構造と設計可能性 Structure and Design of Anonymity on the Internet 折田明子/Akiko ORITA | 5 |
| GPS付携帯電話を使ったマッピングサイトが閲覧者に及ぼす効果 A Publicly-Controlled GPS-Phone Used Mapping Site Effects 佐藤建・松野良一/Ken SATO, Ryoichi MATSUNO | 15 |
| 公共空間における非言語コミュニケーションとしての「ケータイのディスプレイを見る行為」 ‘Looking at "Keitai" (Mobile Phone) Displays’ as a Form of Non-Verbal Behavior in Public Spaces 中村隆志・大江宏子/Takashi NAKAMURA, Hiroko OE | 27 |
| 小売業と連携した新規農業ソリューションの検討 A Study of new agricultural solution which cooperated with retail 神成淳司/Atsushi SHINJO | 39 |
| Q&A コミュニティを対象とした回答の信頼性指標構築に向けた分析 An analysis toward Constructing Answer Trust Metrics for Q & A Community 瀧寛文・森崎修司・大平雅雄・松本健一/ Hirofumi TAKI, Shuji MORISAKI, Masao OHIRA, Kenichi MATSUMOTO | 49 |
| テレワーク時代における地域情報化戦略の設計 A Design of local revitalization strategy in the telework age 豊川正人・箆島専・浦野義頼/Masato TOYOKAWA, Makoto OSAJIMA, Yoshiyori URANO | 59 |
| Web2.0時代の地域広報 — 北海道180市町村のウェブサイト調査をもとに Public Relations and Community in the Era of Web2.0 高谷邦彦/Kunihiko TAKAYA | 85 |
| 通信インフラ網の技術開発における知の進化について A Model of Knowledge Evolution in Technology Development of Telecommunication Infrastructure Networks 倉谷光一・平井正活/Koichi KURATANI・Masakatsu HIRAI | 95 |

| | |
|--|-----|
| 情報通信基盤としての高品質日本語オープンフォントに関する検討 Examination of high-quality Japanese open font as Information Infrastructure 池田佳代・沼田秀穂・兼子正勝/Kayo IKEDA, Hideho NUMATA, Masakatsu KANEKO | 105 |
|--|-----|

研究ノート

| | |
|---|-----|
| ユビキタスネットワーク社会のTelemedicineにおける政策課題 —近年の医療と健康の概念の変化による政策課題の変化— Current policy issues in Telemedicine based on Ubiquitous Networking: Policy issued in Telemedicine concerned by trends of concepts in medicine 宮崎貴朗/Takaaki MIYAZAKI | 121 |
|---|-----|

投稿のご案内

Journal of The Infosociomics Society

Foreword

VOLUME 4 No1, 2009

はじめに

情報社会学会の皆様

「情報社会学会誌」第4巻第1号をお届けします。
本号は、査読審査を経た原著論文9編と研究ノート1編を掲載しました。

情報社会学における多角的な研究の成果を掲載することができました。

学会では、原著論文等学会誌に投稿される論文につきまして、事前事後に関わらず可能な限り発表の機会を設け討論する事が重要であるという基本方針があり、今号の論文につきましては、年次研究発表大会で発表および討論を行います。学会誌への投稿論文も含めて出来るだけ発表の機会を設けたいと思います。会員の皆様で議論をする機会を設けるために、今年度から6月の年次発表大会、秋のワークショップ、年明けのシンポジウムを定例化して開催し、皆様の研究発表の機会と議論の場を広げたいと考えています。

また、年間を通じて有志による課題を設定した「研究会」を適宜開催することを企画しています。これらの研究成果も論文に取り纏めて学会誌へ投稿するようにお願いいたします。

情報社会学会では、今後も出来るだけ著者と編集委員会および会員との双方向のコミュニケーションを通じて研究の成果を公表する機会を設けたいと思っています。

2009年6月6日

情報社会学会 副会長
編集委員会 委員長
大橋 正和

